

けんこう

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター
Gifu Prefectural General Medical Center

- 平成29年9月発行
- 平成29年 秋号
- 発行責任者 滝谷博志
- 編集 総合医療センター広報委員会

ご挨拶

岐阜県総合医療センター 副院長兼小児医療センター長 桑原 尚志



新聞報道でご存知かもしれません、岐阜県総合医療センター小児医療センターは平成29年4月から、日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）に参加することになりました。この協議会は、全国のいわゆる「こども病院」の関係者が集まって、子どもの医療に関するさまざまな問題点について話し合い協力し合う組織です。参加しているのはハイレベルの小児医療を行うための厳しい基準を満たした全国でわずか36の医療機関です。

昨年3月にオープンした6階建ての新棟「すこやか棟」はこの核となる施設です。1階には小児に適したMRIとCTが入っていますが、これらはいずれも極めて高性能の機種です。ご存知の通りMRIは放射線被爆ゼロで脳や臓器を調べることができます。CTについても従来よりはるかに少ないX線量で高画質が得られます。CTは時間分解能も高いため鼓動の速い子どもの心臓でもクリアな画像が得られます。

2階には小児科、新生児内科、小児循環器内科、小児心臓外科、小児外科をはじめとして多くの小児系外来が集まっています。そして3階・4階は重症心身障がい児施設「すこやか」で、人工呼吸器を必要とするような非常に重い障がい児であっても入所できる施設となっています。

この「すこやか棟」が完成し、重症心身障がい児施設が14床で稼働をはじめ、拡張工事中だった新生児センターが昨年11月完成したことで、基準をみたしJACHRIへ参加する運びとなりました。今後予定されている小児科病棟内の小児感染症病床2床の設置や新生児センターのフルオープン、重症心身障がい児施設のフルオープンでさらに発展する予定です。

人材面でも多くの小児科専門医が在籍しているだけでなく、小児神経、小児腎臓、小児循環器、新生児、小児アレルギー、小児救急、小児外科、小児脳神経外科、小児麻酔などの各専門分野のスペシャリストが在籍しています。海外への人材派遣も行っており、本年4月には、カナダで1・2を争う名門マギール大学で2年間臨床医（クリニカルフェロー）としての経験を積んだ小児救急医が当院に戻り活躍しています。

今回のJACHRI参加は、いわゆる

待に応えていく所存ですのでこれからもうぞよろしくお願い申し上げます。

患者さんの権利と責務

- 平等に安全で良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と助言のもとに自分自身の医療を決定する権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 個人のプライバシーが守られる権利
- 医療従事者と協力して医療に参加する責務

岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

- 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

臨床倫理指針

- 患者さんの人権、意思を尊重し、有益かつ公平な医療を行います。
- 治療方針の十分な説明と同意に基づいた医療を行います。
- 患者さんの個人情報を保護し、医療者の守秘義務を遵守します。
- 治療にかかる法令を遵守し、ガイドラインに準じた医療を行います。
- 院内の各種委員会（倫理委員会、治験審査委員会、臓器提供委員会など）の審議結果に基づいた医療を行います。

全身のいろいろな症状の患者さんを診ています。

主任部長兼内科部長 飯田真美

現在の医療は細かく分野が分かれ、それぞれ高度に専門化しています。しかし、実際に受診する時には、複数の症状がある場合や、症状（たとえば、発熱、むくみ、やせる、関節痛、筋肉痛、こわばり、しびれ、リンパ節が腫れるなど）からはどこに関連する病気なのかわからない場合、症状はないけれど血液検査で異常がある場合などは、受診する診療科を迷うことはよくあることです。そのような方は、総合内科専門医のいる当センターでは私たちがまず担当し、全身を診て最も適切な専門診療科に連携します。

当科として、外来・入院を含め専門的に継続的に診療を行っているのは、リウマチ・膠原病関連疾患です。また、代謝性疾患の**脂質異常症**に関しても、かかりつけ医と連携で専門診療を行っています。

<知ってほしい！家族性高コレステロール血症（FH）>

血液中のいわゆる“悪玉コレステロール”として知られるLDLコレステロール値が高いと血管の内側に脂質がたまって動脈硬化が進み、脳卒中や心筋梗塞などのリスクが高まります。これには食事をはじめとする生活習慣ももちろん関係しますが、実は**遺伝性の病気**である**家族性高コレステロール血症（FH）**が原因のことがあります。FHでは生まれた時からLDLコレステロール値が高いため若くても動脈硬化が進行します。未治療の場合は**30～40歳台での心筋梗塞**の発症リスクが大変高くなります。FHは常染色体優性遺伝で日本人の200～500人に1人いますが、診断されている人はわずか1%以下です。**早く診断して適切で十分な治療**をすることで、生命にかかる深刻な状態を防ぐことができます。

コレステロールの高い方へ・・・あなたやあなたの子さんはFHではないか、確認しましょう。



下垂体腫瘍に内視鏡手術を導入しました！

脳神経外科部長 熊谷 守雄

神経外科の最近のトピックを含めた紹介をさせて頂きます。

脳神経外科というと、どうしても脳卒中が頭に浮かんでくる科ではないでしょうか。当科でも、以前より、脳血管障害（クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞）、頭部外傷などの救急患者さんに対して24時間対応可能な体制をとっております。しかし、実際は、上記以外にも、脳腫瘍、てんかん、小児神経系奇形などの疾患に対しても治療させていただいています。

3年ほど前から、下垂体腫瘍に対して神経内視鏡下手術を始めました！

下垂体とは、トルコ鞍という頭蓋骨のくぼみに、入り込んでいる小さなものです。ホルモンの中権（元締め）であり、そのできる下垂体腫瘍は、日本人では、脳腫瘍の中でも3番目に多く、中には不妊症になったり、末端肥大症などになったりする腫瘍です。しかし、一番重要なことは、視野が狭くなり見にくくなる事です。多くは良性腫瘍であり、摘出すれば治癒可能な腫瘍でもあります。

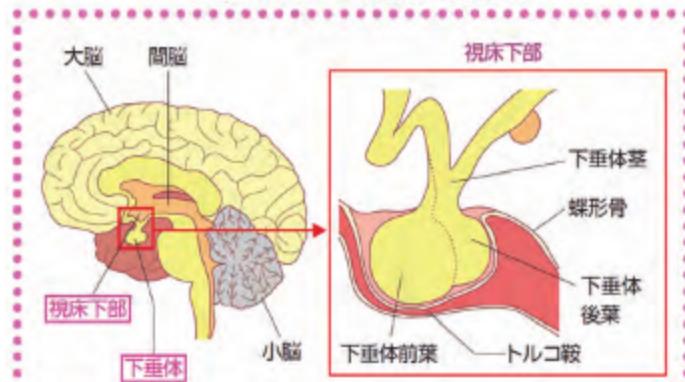
摘出方法は、古くから、ハーディ法といい、鼻から手術用顕微鏡を使用して摘出してきました。最近では、顕微鏡に変わり神経内視鏡を使用することで、より確実に腫瘍を摘出することができるようになってきました。

全国でもまだ主流は顕微鏡手術ですが、当科では、内視鏡下単独で手術できるようになりました。

緊急では顕微鏡下手術も十分可能です。

眼科・婦人科・内科からのご紹介患者さんが殆どです。実は、下垂体に腫瘍があった。そんな場合は、十分な説明をさせていただきますので、是非、当科をご利用ください！

■視床下部・下垂体の位置



点頭てんかんの治療にビガバトリン(VGB)が使用可能になりました

小児科部長 今村 淳

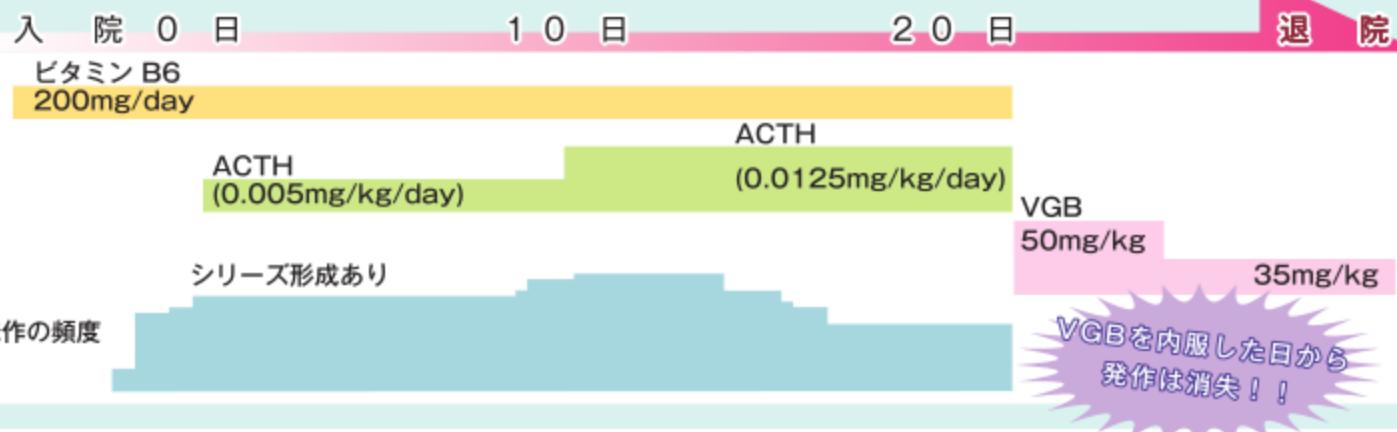
【点頭てんかんとは?】

点頭てんかんは生後数か月前後の乳児期に発症するてんかん性脳症の一つです。発作時には急に四肢に力が入り白目をむいて頭がカクンと垂れ下がります。発作は数秒から数十秒おきに繰り返すことが多く、これをシリーズ形成といいます。発作時は一瞬意識をなくしますが、すぐに意識が戻りいつもと同じようにニコニコしていることもあります。身近な人は“最近この子はよくお辞儀をするようになった”と表現されることがあります、まだ人見知りもしない乳児が急にお辞儀をすることはあります。もし周囲でこのような話をする方がいらっしゃれば、念のため小児科に受診してみては?とお勧めしてください。点頭てんかんは治療しないで放置すると、発達が遅れたり、今までできていたことができなくなったりする(神経学的退行)場合があります。

【診断と治療はどうすればいいの?】

点頭てんかんは特徴的な発作症状と脳波検査所見とで、比較的容易に診断が可能です。原因検索のため、頭部MRIなどの画像検査は必要です。治療にはビタミンB6製剤や抗てんかん薬の内服、副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の筋肉注射などをおこないます。ビガバトリン(VGB)は2016年から使用可能になった、点頭てんかんのみに適応のある抗てんかん薬です。VGBは専門医がいる登録施設以外では使用できませんが、当センターは登録施設となっています。

VGBがよく効いた点頭てんかん患者さんの経過



『岐阜県総合医療センター健康祭 2017』のご案内

開催日時：平成29年11月18日（土）11:00～16:00
場 所：本館1階、情報交流棟3階

【ミニレクチャー】

1. “まごわやさしい”のススメ 栄養管理部 横山幸美
2. 認知症にならないための健康管理 認知症ケアセンター 宇野斗三枝
3. 認知症の診断と治療 神経内科 西田浩
4. 認知症患者さんが利用できる医療福祉制度 退院サポート部 武山修
5. 家族が認知症になるということ 臨床心理士 鈴木美砂子
6. 高齢者の運転免許について 岐阜県警中警察署第一交通課長

【認知症なんでも相談】

予約制。

【認知症を楽しく予防しましょう！】

ミニ脳トレ体操、認知予防体操、脳トレゲーム

【川柳大会】

【コンサート、寸劇他】

コンサート（軽音楽、和太鼓）、寸劇他（認知症予防、いのちについて）

【医師体験】

当院の医師を体験してみよう！

【各種測定コーナー】

認知症チェック、血管年齢測定、骨密度測定、体組成計測定

【各種相談コーナー】

お薬相談、栄養・食事相談、母乳育児相談

岐阜県総合医療センターでは、一般の方を対象に健康祭を毎年開催しています。

今年のテーマは、「みんなで考える認知症～楽しく予防し、理解し、支えあおう～」です。認知症予防のための体操やゲームなど参加・体験型のイベントを多く企画しているほか、認知症の介護に関する各種相談窓口も開設しております。認知症に関して楽しく学んで相談もできる絶好の機会です。

たくさんのご来場をお待ち申し上げます。



参加費・駐車場無料

看護部からの お知らせ

看護の心を次の世代につなぐ ~ふれあい看護体験の報告~

ふれあい看護体験は、学生・地域の人々が病院関係者とふれあい、看護の理解と関心を深めることを目的に全国で行われています。当院において H29年8月10日に高校生を対象としたふれあい看護体験を開催し、男性2名を含め37名の高校生が参加しました。

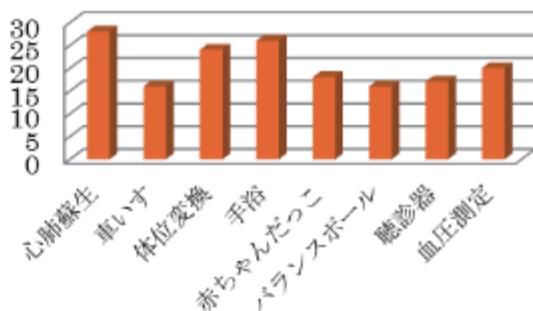
午前中は、先輩看護師から「看護師の仕事」について説明を受け、心臓マッサージや聴診器で呼吸の音を聞いたり、体位変換を体験したりしました。体験しながら看護師による観察の重要性や看護技術

の根柢を知ることができました。午後は、2~3名に分かれて病棟に行きました。病棟では、看護師と一緒に患者さんの所を訪問し、援助場面を見学しました。初々しい高校生たちが、一生懸命患者さんと関わることで患者さんからも笑顔が見られました。

高校生からは「素敵な仕事ですね。看護を身近に感じられ有意義な時間となりました。」と感想が聞かれました。一人でも多くの高校生が看護に興味を持ち、看護師を目指してくれればと願っています。



体験できてよかったです



こんにちは 栄養管理部です

第32回

今年2017年は梅雨入り頃から蒸し暑い日々が続きました。秋に差し掛かって気温は下がってきましたが食中毒の危険はいつでも、どこにでも潜んでるので何気ない日常の食生活にも注意が必要です。

食中毒予防の基本は菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」の3点です。今回はそのポイントをいくつか紹介します。

◆肉、魚などの生ものは中心まで火が届くようしっかりと加熱して、他の作業に移る前に手と調理器具をよく洗うといったことを心がけましょう。



◆カレーやシチューは食中毒を起こしやすい食品です。家庭でまとめて作った場合は粗熱をとったらすぐに冷蔵か冷凍しましょう。



◆野菜や果物にも表面に食中毒菌や寄生虫が付いている可能性があります。しっかりと水洗いをし、傷んでいないか確認しましょう。



◆水分補給のために最近はマイボトルを携帯する方多くなりました。一部の水筒は洗いにくい形のものもあります。使用後は必ず丁寧に洗浄しましょう。

便利なペットボトルですが、一度開封したものは常温で放置しない、直接口をつけて飲んだら速やかに飲みきる、古い容器は使いまわさないといったことに気をつけてください。



寄附について

平成29年3月、患者さんから絵本15冊を頂きました。平成29年5月、上原 義利様から病院運営全般のため、寄附金を頂きました。大切に使わせていただきます。

広報紙「けんこう」第35号をお届けします。
取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

岐阜県総合医療センター 広報委員会
〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805
Eメールアドレス info@gifu-hp.jp
ホームページアドレス http://www.gifu-hp.jp